

# 養命の里 会報

No.4

## 養命の里「NPO法人4年目に」

2002年2月にNPO法人化した「信州養命の里プロジェクト」は、法人化4年目を迎えました。

**養命の里は**、信州伊那谷の段丘に点在する遊休地、荒廃地の復興と再利用を進めながら、経歴70年代も超えて、新世紀を生きる人々の「生きがい」「健康」「仲間」づくりを提供しています。

**養命の里は**、信州伊那谷の豊かな自然の中で、ゆったりとくつろいだり保養する、機会と場所を提供しながら、都市農村交流などの地域間交流と、地域活性化を目指しています。



## 会員になりませんか イベントの案内をいたします

どんなイベントがあるか、活動報告をご覧下さい。

### 販売物を会員割引します

養命の里が販売するリンゴなどを、割引した会員価格でお求めになれます。

### 会費は

個人会員は、入会金6,000円、年会費6,000円です。  
賛助会員は、入会金30,000円、年会費6,000円です。

## 活動報告

### 御柱（おんばしら）祭

(2004年四月十一日)

諏訪だけが「おんばしら」ではない

2004年は、6年に一度の御柱（おんばしら）の年です。養命の里 中川村にも、御柱祭があります。中川村にある諏訪大社の末社、上宮外縣神社の御柱です。正式なお祭りの名称は、「上宮外縣神社御柱式年祭」。



4本の御柱（二の柱、四の柱）を曳き、建てます。養命の里の前理事長 平沢和雄氏が、一の柱を寄進しました。

諏訪大社にはスケールの点では、およびもつきませんが、村の衆による素朴な御柱です。



養命の里都市農村部会では、この御柱見物を兼ねて、交流イベントを開催しました。

上宮外縣神社は、氏子四〇戸余りの村社ですが、地元の人、体験参加者、見物人、外に出ている出身者など、親戚縁者を含めて400人余りの人々が集まりました。

## 信州日本ミツバチ祭り、桃取り

(2004年七月二五日)

信州日本ミツバチ祭りは、信州日本ミツバチの会、タカノ株、養命の里の三者協賛により、中川村のサンアリーナで開催されました。



蜜採取の実演、分蜂、巣作りの講習、蜂蜜の試食、そのほか、陣馬太鼓の演奏などの余興がありました。

**養命の里**では、めぐみ茶、桃、ハチミツ健康クッキーなどの特産品を販売しました。

参加者はそのあと、高森町の林農園で桃取りを楽しみました。



それとってー

## 日本ミツバチのハチミツは、

西洋ミツバチが輸入されたことで衰退してしまいました。

信州日本ミツバチの会長富永朝和さんは、中川村に住む蜂の研究者です。

養命の里の会員でもある富永さんは、日本ミツバチの養蜂を復活させようと二〇年以上前から日本ミツバチの養蜂に励んできました。

飼育は簡単ではなく、富永さんは何度も失敗を重ねながら自身で養蜂技術を開発しました。

日本ミツバチは、野山に咲く色々な花から、まんべんなく蜜を集めます。百種類の花から集めるとも言われ、そこから濃厚な味わいと香りは生まれます。

しかし、西洋ミツバチより体の小さい日本ミツバチが巣箱に持ち帰る蜜の量はごくわずか。

少しずつしかたまらないため、富永さんは一つの巣箱から二年に一度しかハチミツをとりません。貴重な日本ミツバチのハチミツは、こうして生まれます。



日本ミツバチの巣

**農産物出張販売(2004年11月1日)**

名古屋市港区木場町ニユーコトポ名南自治会主催の餅つき大会で、恒例となりました養命の里の農産物を販売しました。

りんご、大根、プチペール長いも、白菜、キャベツ、キウイ、しめじ、ハチミツ、などを完売しました。



**お陣屋行燈(あんどん)市**

(2005年2月11日、13日)

信州の名物に「お陣屋行燈(あんどん)市」があります。

養命の里のある中川村のお隣、飯島町の駅前広小路で繰り広げられる江戸情緒たつぷりの市です。



三〇を超えるお店(たな)が並び代官行列や、義経と静御前(しずかごぜん)の道中、時代劇など数多くのイベントが繰り広げられました。

養命の里では、ひとつのお店を出展し健康茶、りんご、ジューズ、梅干、健康パン、クッキーなどの特産品を販売しました。

売りました。

さあいらっしやい。信州 養命の里のお店だよ。健康茶、りんご、ジューズ、梅干、健康パン、クッキー、売ってるものはみんな健康食品だよ。

なにやら変な格好のおじさん、代官行列に人足で参加する養命の里の会員が、お店の応援にかけつけました。



**早春参禅会(2005年3月13日)**

多種多様化が急速に進み、混乱する時代の中で、私達は「何をすべきか」を、各々の立場で真剣に考える機会にと、信州の山深いお寺、高森町の隣政寺で、3回目の参禅会を催しました。



同時に、養命の里が取組んでいる「薬草と健康」について、長野県薬草協議会の方に講演をいただき、勉強しました。

厳寒の粉雪が舞う空模様でしたが、伊那谷の住民を中心に、東京からの参加を含め三六名もの方が参加されました。

**益母草(やくもそう)栽培**

養命の里 農園部会では、養命酒製造(株)様の委託により、昨年に引き続き、漢方薬の一種である益母草(やくもそう)を栽培し、3年目になりました。

今年は、4アールへ作付けして200kg(乾燥状態)を収穫しました。

写真は、乾燥した益母草を裁断しているところです。



**プチペール栽培**

食品加工メーカーの委託によるプチペールの栽培は、2年目になりました。



**ソバ栽培**

ソバ栽培は、4年目になり、秋ソバを作りました。赤ソバを五〇アール、白ソバを一五アール作付けしました。

赤ソバは、日本ミツバチによる、蜜の採取が目的です。

赤ソバの蜜は、「がん」に効くとされ、「信州日本ミツバチの会」が赤ソバのハチミツを製造し、タカノ(株)様が販売します。白ソバは、ソバ粉にします。

秋ソバ播きには、毎年暮れに、養命の里が農産物販売で訪れている名古屋市港区木場町ニユーコトポ名南自治会から、3人の方がお手伝いに駆けつけてくれました。



**めぐみ茶(二包×2パック入り)**



信州のめぐみ茶に、二二包×2パック入りの袋が加わりました。全部で二四包が入っています。税込み一、五二〇円です。

今後も相変わらずご支援下さい。

長野県上伊那郡中川村片桐2316の2  
信州 養命の里 プロジェクト事務局  
Tel 0265-88-2452 Fax 0265-88-2452  
e-mail sys100@ceres.ocn.ne.jp  
URL http://www4.ocn.ne.jp/~youmei/  
「養命」は、養命酒製造株式会社の著名商標で、「養命の里」の使用については、同社の承諾を受けております。